

2018年7月29日

日本学術会議第一部会員
日本学術会議第一部連携会員各位

第1回人文社会科学系男女共同参画実態調査ご協力のお願い

日本学術会議副会長	三成美保
日本学術会議第一部長	佐藤岩夫
日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会委員長	永瀬伸子

先般お知らせしましたように、日本学術会議との連携のもと、2017年5月21日に人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会 Gender Equality Association for Humanities and Social Sciences (GEAHSS 略称ギース、委員長 井野瀬久美恵) が設立されました。当初は4学会の参加でしたが、2018年3月31日の発足記念シンポジウム(於お茶の水女子大学)では43学会が、さらに2018年7月現在では52学会が加盟下さり、連絡会は大きく拡大しています。

この度、連絡会発足後の最初の大きな活動として、ギース、日本学術会議第一部総合ジェンダー分科会、お茶の水女子大学・東京大学との共同で、「人文社会科学系研究者の男女共同参画実態調査」を実施いたします。ギース加盟52学会にはすでに調査をお願いしております。とはいえ加盟学会は全分野に及んでおらず、(一覧: <https://geahssoffice.wixsite.com/geahss/blank-2>) 先生方からご支援をいただき、非加盟学会につきましても、この調査にぜひご協力いただきたくお願い申し上げます。広い分野からの回答を得てこそ、調査の意義が上がると考えております。

調査は6月から12月まで実施します。

つきましては、先生方の関連学協会において、調査協力についてご検討いただき、以下のウェブ調査画面 URL を、可能であればすべての会員(男女いずれも)の皆様にメーリングリスト等を通じて周知し、回答を奨励していただきたく、何卒お願い申し上げます。なお、調査に回答するためにギースに加盟する必要はございません。

<https://panelsrv.p.u-tokyo.ac.jp/v2/?r=30NxbM0we5ySoUsCHSJl>

以下の QR コードからも画面に入ってください。



日本の研究者の女性割合は 15.7%（2017 年総務省・科学技術研究調査）と OECD 最低レベルであり、2006 年に韓国に追い抜かれています。男女共同参画の推進と若手研究者の実態把握、そしてその支援は学術の振興に不可欠です。自然科学系では男女共同参画学協会連絡会を 2002 年に設立、学会横断的な活発な活動をし、5 年ごとに行われる大規模調査は、科学技術政策に大きく反映されています。

人文社会科学系の調査は学術発展の大きい力となると思われます。どうかご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。